

「ひらおで暮らす」を支える

あむ

ひらお社協だより

4.12発行

2024 No.218



3月3日、平生町ボランティアグループ連絡協議会主催のボランティア研究集会「第27回ひらお♡ふれあい広場」が開催され、177名が参加されました。医療法人さいとう整形外科 院長 斉藤良明氏より『ロコモティブシンドローム～健康寿命をのばすために～』と題し、いつまでも健康で暮らすことができる身体や体力づくりについて実践を交えながらご講演いただきました。参加された皆さまからは、「ロコモ予防について楽しく学ぶことができました」「教えていただいた食事や運動を日々の生活に取り入れていこうと思います」などの感想が聞かれ、ご自身の健康について考える、充実した研究集会となられた様子でした。

【編集・発行】

社会福祉法人 平生町社会福祉協議会

平生町大字平生村 618-2 あいあむ

TEL 56-8000 FAX 56-8020

✉ mail fukushi@hirao-shakyo.or.jp

🌐 HP https://hirao-shakyo.or.jp



会場の皆さまで頭の体操をされている様子

ひらお社協だよりは、赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています。

“「ひらおで暮らす」を支える” おまかせ

れいわ ねんど
令和6年度

じっし じぎょう よさん
実施事業／予算

～経営理念～

- 平生町社会福祉協議会は、だれもが安心して暮らせる“ひらお”のまちづくりをすすめます
- 平生町社会福祉協議会職員は、人としてひとを大切にするプロフェッショナルを目指します
- 私たちは住民の満足、お客様の満足、職員の満足を追求し続けます

～重点目標～

1 「持続可能な地域福祉推進体制づくり」の継続協議

- 1) 町と連携した協働推進体制づくり
－ 平生町における地域福祉推進体制づくり
- 2) 災害に備えた支援体制づくり
－ 災害ボランティアセンターの設置・運営に関する協定
－ 地域協働・常設型災害ボランティアセンター(仮)の検討
－ 広域災害ボランティアセンターの検討

2 法人経営環境の見直し

- 1) 経営資源の再編
－ 事業の再編と経営資源の有効活用
- 2) “暮らし”の支援
－ 制度外サービスの創出

1 「持続可能な地域福祉推進体制づくり」の継続協議

1) 町と連携した協働推進体制づくり
令和6年度は、令和7年度をあらたな開始年度とする「平生町地域福祉計画」の策定年度となります。本町の現状に則して、町、住民、社協が協働して地域福祉の推進に取り組んでいくためにも次期計画の策定は町の計画と社協の地域福祉活動計画を一体的な計画として策定することを提案しています。今後の地域福祉活動の推進方針を共有し、本町の地域福祉の協働推進体制づくりを進めていきます。

2) 災害に備えた支援体制づくり
阪神淡路大震災以降、多くの自治体で災害ボランティアセンターは、自治体からの受託事業として社協が開設・運営することが一般化されてきました。委託先団体との協定は、地域の現状にあった形で締結されることが重要になります。本町においても、災害ボランティアセンターの設置・運営に必要な資源の確保やその負担をどこが担い、準備をすすめていくのかを関係者間で協議を進めていきます。

また、南海トラフ地震発生時には、県東部の広域的な被害も想定されます。社協も甚大な被害を受けることを想定し、災害ボランティアセンターの設置や災害ボランティア活動の支援を地元関係者や近隣市町社協との協働で取り組む体制づくりを検討していきます。

2 法人経営環境の見直し

1) 経営資源の再編
介護業界全体の経営環境は今後更に厳しくなっていくと予測しています。また、他の業界と同様に人員の確保も大きな課題です。本会でも平成24年以降、法人内の4つの事業所と拠点の統廃合を進め経営の効率化を図ってきましたが、人口動向や需要の変化に応じて介護事業のほか地域福祉や受託事業等の在り方について更なる検討が必要となっています。法人の経営資源をどのように活用していくべきか、地域の社会環境の変化を見極めながら重点的に取り組むべき事業の選択と経営資源の集中を図りながら、職員の雇用と地域の需要を支えるために事業や法人単位での経営体力の向上施策について調査、研究をすすめていきます。

2) “暮らし”の支援
“暮らし”という視点で捉えると、社協に限らず地元の団体や事業者がサポートできることもありそうです。ただし、それを福祉サービスの延長として期待されることや住民ボランティアで担っていくことには限界があり、担い手不足や介護人材不足にも影響を及ぼしていきます。既存の制度や枠組みに捉われず“暮らしを支える”サービスを提案できるよう検討していきます。

企画総務部

重点目標 ・ 法人経営環境の見直し
事業の再編－組織の多様性・柔軟性・創造性の向上を図る－

・ 持続可能な地域福祉推進体制づくり
町と連携した地域福祉推進体制を構築する
災害に備えた地域協働による支援体制の検討

- 法人運営
- 人財育成の推進
- 地域福祉活動の推進
住民福祉活動の支援、地域見守りネットワークの推進、生活支援体制整備事業(生活支援コーディネーターの設置)、いきがい・助け合い応援事業、地域公益活動
- ボランティア活動の推進
- 福祉教育の推進

- ひらお♡はつらつ人生の推進
介護予防事業、集いの場の活動支援
- 相談機能の充実
地域福祉課題への対応(相談・支援体制)、各種資金貸付事業、福祉サービス利用援助事業
- 地域包括支援センターの運営(令和6年5月末まで)
- 日常生活用具貸与事業
- 広報・啓発活動
- 赤い羽根共同募金運動・歳末たすけあい運動
- 指定就労継続支援事業所「あいあむ」の運営

事業部

重点目標 ・ 効率的な事業所運営
事業所の効率化と経営資源の有効活用
地域の需要を支えるサービスの提供と選択

・ 暮らしを支えるサービスの提供
部門間の連携による効率的かつ迅速なサービス提供
制度外サービスの検討と創出

- 各事業所の事業運営
 - ・ ケアセンターあいあむ
通所介護事業
介護予防・日常生活支援総合事業第一号通所事業
訪問介護事業
介護予防・日常生活支援総合事業第一号訪問事業
基準該当生活介護事業
居宅介護(重度訪問介護)事業
居宅介護支援事業
 - ・ はつらつセンター
通所介護事業
基準該当生活介護事業

- ・ ひらお♡みんなの家
(介護予防) 認知症対応型共同生活介護事業
- ・ さが♡みんなの家
(介護予防) 認知症対応型通所介護事業
(令和6年5月末まで)
- サービスの質の向上
サービス内容の評価・見直し、人財育成、リスクマネジメント、地域との連携
- 在宅介護推進に向けた取り組み
介護者のつどいの開催
- 『あいあむ+』プロジェクトの推進
あいあむ+ClubH2O、ICTの活用、暮らしを支えるサービスの検討

令和6年度予算

(単位: 千円)

収 入			支 出		
項 目	予算額	%	項 目	予算額	%
会費収入	1,400	0.45%	人件費支出	199,404	64.39%
分担金収入	1,353	0.44%	事業費支出	30,543	9.87%
寄付金収入	1,100	0.36%	事務費支出	9,821	3.17%
経常経費補助金収入	15,457	4.99%	就労支援事業支出	2,400	0.77%
受託金収入	11,275	3.64%	貸付事業支出	100	0.03%
貸付事業収入	100	0.03%	分担金支出	1,353	0.44%
事業収入	1,769	0.57%	助成金支出	2,030	0.66%
介護保険事業収入	192,633	62.20%	負担金支出	200	0.06%
就労支援事業収入	2,400	0.77%	支払利息支出	820	0.26%
障害福祉サービス等事業収入	12,520	4.04%	その他の支出等	534	0.17%
その他の収入等	594	0.19%	設備資金借入金元金償還支出	14,004	4.52%
設備資金借入金償還補助金収入	9,042	2.92%	退職手当積立基金預け金支出	6,633	2.14%
積立資産取崩収入	10,000	3.23%	当期末支払資金残高	41,881	13.52%
繰越金	50,080	16.17%			
合 計	309,723		合 計	309,723	

ひらお安心ネットワーク協力事業者連絡会開催

2月27日、ひらお安心ネットワーク協力事業者の皆さまにお集まりいただき、標記連絡会を開催しました。ひらお安心ネットワークは、商店等を営む事業者の皆さまが、業務の中で高齢者等から生活に関する不安や相談事を聞かれた際に相談窓口をご紹介いただくことにより、問題の予防や早期解決に向けた支援を行うことを目的としているものです。現在町内26店舗の皆さまにご協力いただいています。連絡会では、平生町高齢者地域包括支援センターによる最新の事例対応の説明の後、日頃の業務の中でお気づきのことや安心して暮らしていける平生町にするために出来ること等について情報意見交換をされました。

新たに協力店にご登録いただきました！

- まごころ弁当
- 平生給食
- 宅配クック123
- ニシムラデンキ



～地域の支え合い活動について考えよう～

山口県老人クラブ連合会主催「関係機関・団体と進める！マッチング会議」

1月19日（金）に大野地区、1月30日（火）に佐賀地区で、平生町老人クラブ連合会の皆さんを中心に標記会議が開催されました。老人クラブ、地区社協、輪づくり運動推進委員会、コミュニティ協議会から各地区30名前後の参加があり、本会からも職員3名が参加させていただきました。

午前中は、講演「老人クラブのこれからの考える～連携による支え合いの実践に向けて～」(講師：山口大学大学院医学系研究科講師 長谷亮佑氏)、平生町の地域活動の状況と平生町老人クラブ連合会の活動状況の報告を聴講し、午後からは、参加者の皆さんでグループワークが行われ、地域課題や支え合い活動について活発に意見を出し合われました。本会職員もグループワークに参加させていただき、地域の皆さんの生の声を伺うことができました。

運転ボランティア情報交換会

3月21日（木）、あいあむにて標記情報交換会を開催しました。町内で移動支援を実施されている団体や今後実施を検討されている団体の皆さまにお集まりいただき、日頃の活動の様子や課題について伺いました。週に1回運行されているところや予約に応じて運行されているところなど、活動団体によって運行の実態は違いますが、どの団体も運転免許証を返納された方など外出することが難しい方の助けになればと活動を展開されています。運転ボランティアの人員不足が課題としてはあるものの、利用されている方からの感謝の言葉に何とか続けていく方法はないかと考えながら活動

されていることが伝わってきました。



参加者募集中！

点訳教室に参加してみませんか？

今年度も点訳教室を随時開催いたします。年齢・性別・経験などは問いません。ご興味のある方は、お気軽にお問い合わせください。

《開催日時》毎月第2・4木曜日 10:00～12:00 全8回

《場所》平生まち・むら地域交流センター

《講師》点訳ボランティアグループ「てんとうむし」の皆さん

《受講料》無料

※ 道具、教本はこちらでご用意いたします。

※ 全8回の日程を修了された方には、平生町社会福祉協議会より修了証書をお渡しいたします。

【お問合せ】あいあむ（平生町社会福祉協議会） ☎ 56-8000



わたしたちのまち“ひらお”を私たちの手で住みよいまちへ!
 福祉の輪づくり運動情報

おおのちく
大野地区

～運転ボランティア交流会を開催～

大野地区社会福祉協議会では、平成18年よりお一人での外出が困難な方を対象に、通院や買い物の送迎を行う移送サービス事業をされています。

2月2日、あいあむで運転ボランティアの皆さんの交流会を開催されました。6名の方が参加され、活動する中での気づきを話し合われました。

～ふれあい推進員研修会開催～

2月21日、大野地域交流センターでふれあい推進員研修会が開催されました。柳井地区広域消費生活センターの儀部理子氏より、最近の悪質商法の手法や見守り活動をする上でのポイントについての講話を聴かれた後、4月に開催を予定されている「輪づくり弁当」の打ち合わせや日頃の見守り活動について協議されました。



そねちく
曾根地区

～輪づくり弁当を実施～

2月20日、曾根地区福祉の輪づくり運動推進委員会の皆さんが友愛訪問活動の一環である「輪づくり弁当」を実施されました。当日は天候にも恵まれ、民生委員児童委員さんとふれあい推進員さんによって、配食を希望された82歳以上141名の方にボランティアの皆さんの気持ちの込められた手作りのお弁当が届けられました。



～ふれあい推進員研修会開催～

3月19日、同委員会と町社協の共催による標記研修会が開催され、16名の方が参加されました。平生町高齢者地域包括支援センターの出前講座にて、認知症サポーターについての講話を聴かれた後、日頃の見守り活動での気づきや地域の様子についての情報交換を行いました。



さがちく
佐賀地区

～5年ぶりの視察研修～

2月28日、佐賀地区福祉の輪づくり運動推進委員会の皆さんが視察研修を実施され、民生委員児童委員さんとふれあい推進員さん15名が参加されました。周南マリコム株式会社（サスケセンター）にて、緊急通報生活サポートシステム「早助」の仕組みや通報の流れ等について説明を聴かれた後、見守り活動の中で感じておられることや地域の方からの声を共有されました。

また、「買い物支援の一つに早助を取り入れられないだろうか」といった声も聞かれ、活発な質疑応答を通して早助への理解を深められた様子でした。



きんさい
よりんさい
みんなのサロン

平生・わかくさの会

- 活動内容：矢野健康体操、談話
- 活動日時：月2～3回（第1・3・5水曜日）

9:30～11:00

- 活動場所：平生まち・むら地域交流センター



あたな
新しいグループが仲間入りしました!

いきいきサロンは、自宅などの身近な場所で、気の合うお仲間と楽しいひと時を過ごす活動です。

新しくサロンをつくってみたい方、町内のいきいきサロンに参加してみたい方は、あいあむ（平生町社会福祉協議会 TEL 56-8000）まで、お気軽にお問い合わせください。

ねんかん
27年間ありがとうございました

こうれいしゃ そうごうそくだんまどぐち か
高齢者の総合相談窓口が変わります

ひら おちょう こうれいしゃ そうごうそくだんまどぐち ひら おちょうこうれいしゃ ち いきほうかつし えん
平生町の高齢者の総合相談窓口（平生町高齢者地域包括支援センター）が、
がつ にち いりょうほうじんこう きかい へんこう
6月1日より医療法人光輝会へ変更されることとなりました。

ほんかい へいせい ねん かいせつ ぜんしん ひら おちょうざいたくかい ご し えん
本会は、平成9年に開設いたしました前身の平生町在宅介護支援センターか
ら 27年間、本町の在宅生活や生活の困りごとの公的な相談窓口としての役割
を平生町から受託運営してまいりました。長い間、地域のみなさまからいただき
ましたご厚情に心より御礼申し上げます。

ひ つづ がつまつ げつ どようび しゅくじつ まどぐちかいしょ でんわ たいおう
引き続き5月末までは、月～土曜日、祝日の窓口開所、お電話での対応を
24時間受け付けております。また、今後も民間の立場で様々な生活の困りごと
の相談に対応していけるよう努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いい
たします。

なお、6月以降の新しい地域包括支援センターの
連絡先、開設場所等につきましては、平生町からの
ご案内をご確認いただければ幸いです。



赤い羽根共同募金実績

～ご協力ありがとうございました～

戸別募金

西分自治会	20,000円
弁上自治会	13,000円
百済部自治会	9,000円

大口募金

大下 嘉之 様	3,000円
田坂 教隆 様	5,000円

赤い羽根ガチャガチャ募金

募金百貨店プロジェクト	5,200円
-------------	--------

募金百貨店プロジェクト

れすとらん♡あいあむ	3,225円
赤い羽根支援自販機	12,232円

～募金百貨店プロジェクトとは～

“寄付つき商品・企画”を販売し、売り上げの一部を赤い羽根共同募金に寄付することにより、地域社会に貢献する企業・団体等を募集するプロジェクトです。

浄園寺仏教婦人会様

ダーナ（布施）として

伊保木	園田	向井原	隅田	中村	伊保木	東水場
原田	片山富美子様	岡本ヤス子様	住中	中繁	横道	佐浦
清子様		卓夫様	益雄様	益子様	祐一様	益子様
御母堂	御兄	御主人	御母堂	御尊父		御主人
松岡ヨシエ様	松井照之様	正利様	清子様	久子様	直美様	綾男様

香典返し

◆ご芳志ありがとうございました◆

(2/15/31迄)
(順不同)

